

2017年6月12日

資料 1 - 3

日本産科婦人科学会

「今後の医師養成の在り方と地域医療に関する検討会」

産婦人科領域  
地域医療に求められる専門  
医制度の在り方

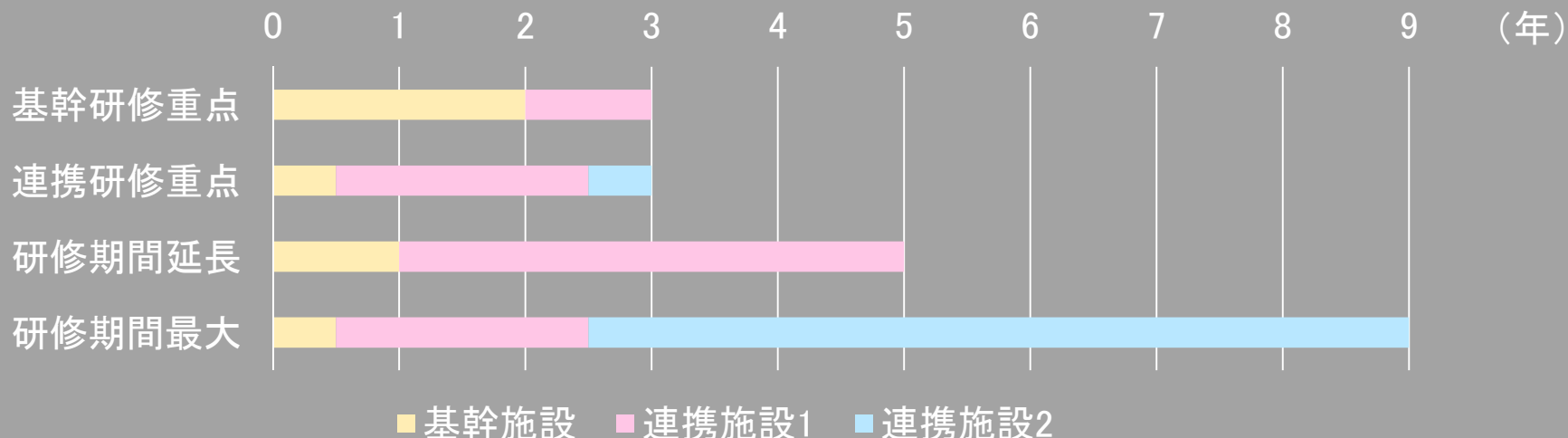
筑波大学医学医療系産科婦人科学

佐藤豊実

# 新専門制度の概要 1

## 専門研修施設と研修期間

- 専攻医は6ヶ月以上24ヶ月以内の期間、基幹施設での研修を行う。
- 連携施設1施設での研修も24ヶ月以内とする。
- 研修期間が3年を超える場合には延長期間の研修を(24カ月を越えて)基幹施設当該連携施設で行うことは可とする。
- 東京23区および政令指定都市以外にある連携施設または連携施設(地域医療)で、1か月以上の研修を行うことを必須とする。
- ストレートに専門研修を修了しない場合、研修期間は1年毎の延長とする。専攻医は専門研修開始から9年以内に専門研修を修了し10年以内に専門医試験の受験を行う。



# 新専門制度の概要 2

## 修了要件(研修修了に必要な経験)

- a) **分娩症例**150例以上、ただし以下を含む((4)については(2)(3)との重複可)
  - (1) 経膈分娩;立ち会い医として100例以上
  - (2) 帝王切開;執刀医として30例以上
  - (3) 帝王切開;助手として20例以上
  - (4) 前置胎盤症例(あるいは常位胎盤早期剥離症例)の帝王切開術執刀医あるいは助手として5例以上
- b) **子宮内容除去術**、あるいは**子宮内膜全面搔爬を伴う手術執刀**10例以上(稽留流産を含む)
- c) 膈式手術執刀10例以上(**子宮頸部円錐切除術**、**子宮頸管縫縮術**を含む)
- d) **子宮付属器摘出術**(または**卵巣嚢胞摘出術**)執刀10例以上(開腹、腹腔鏡下を問わない)
- e) **単純子宮全摘出術執刀**10例以上(開腹手術5例以上を含む)
- f) **浸潤がん(子宮頸がん、体がん、卵巣がん、外陰がん)手術**(執刀医あるいは助手として)5例以上
- g) **腹腔鏡下手術**(執刀あるいは助手として)15例以上(上記d、eと重複可)
- h) **不妊症治療チーム一員として不妊症の原因検索**(問診、基礎体温表判定、内分泌検査オーダー、子宮卵管造影、子宮鏡等)、あるいは治療(排卵誘発剤の処方、子宮形成術、卵巣ドリリング等)に携わった(担当医、あるいは助手として)経験症例5例以上
- i) **生殖補助医療における採卵または胚移植に術者・助手**として携わるか、あるいは見学者として参加した症例5例以上
- j) **思春期や更年期以降女性の愁訴**(主に腫瘍以外の問題に関して)に対して、診断や治療(HRT含む)に携わった経験症例5例以上(担当医あるいは助手として)
- k) **経口避妊薬や低用量エストロゲン・プロゲステン配合薬の初回処方**時に、有害事象などに関する説明を行った経験症例5例以上(担当医あるいは助手として)

# 産婦人科研修管理システム

- 専攻医のプログラムへの登録・移動
- 到達度自己評価・指導医評価およびフィードバックの登録
- 専攻医による経験症例の登録と指導医の確認
- 学会発表・論文の管理
- 学会・講演会参加単位・講習受講単位の管理など

# 産婦人科研修管理システム

e-igakukai 医学会

先生のマイページ

ログアウト  
文字サイズ 拡大 標準

ホーム 研修会・セミナー 動画配信 専門医単位 アンケート Myスケジュール

安全性情報  
03.14 医薬品・医療機器等安全性情報 第341号(厚生労働省)  
02.04 医薬品・医療機器等安全性情報 第340号(厚生労働省)  
12.20 医薬品・医療機器等安全性情報 第339号(厚生労働省)  
続きを見る

学会関連メニュー  
学会会員検索  
本人情報変更  
会員検索用公開設定  
学会会費状況  
専門医単位照会  
申込・参加履歴照会

所属学会メニュー  
日本産科婦人科学会  
OPEN & CLOSE  
会員向け開示情報  
JOGR Online Journal  
専門医・指導医関連情報  
産婦人科医師公募情報  
ACOG  
優秀論文  
優秀演題  
ビデオライブラリー  
地方学会異動申請  
産婦人科研修管理システム

学会からの最新のお知らせ  
学会を選択 [全て] 選択

- 04.07 2017年度に「日本産科婦人科学会専門医」の更新申請・再認定申請を行う会員へ「日本専門医機構認定産婦人科専門医」の申請に関するお知らせ (日産婦)
- 03.08 現在の基幹施設、連携施設以外で、平成30年度に研修を開始する専攻医のための専門研修プログラムを新規に申請する施設へのお知らせ (日産婦)
- 03.08 日本周産期・新生児学学会から「ブロックコメント募集」について (日産婦)
- 12.28 臨床研究・治験推進研究事業における治験候補薬及び治験候補機器等の推薦依頼について (日産婦)
- 12.18 福島県の妊産婦に対する平成28年度県民健康調査の協力依頼について (日産婦)

研修会・セミナー  
学会研修会の情報 開催日の近いものから表示しています

- 04.12 第290回長野県周産期カンファレンス「新生児仮死に伴う新生児DICへのユニビナントロンボモジュリンによる抗DIC効果と脳保護作用—その臨床と基礎研究—」(日産婦) 単
- 04.12 第290回長野県周産期カンファレンス (日産婦) 単
- 04.12 第10回鹿児島県内分泌腫瘍と疾患研究会 (日産婦) 単
- 04.18 第69回 日本産科婦人科学会学術講演会「専攻医教育プログラム7:生殖・内分泌」(日産婦) 単
- 04.18 第69回 日本産科婦人科学会学術講演会 (日産婦) 単
- 04.14 葛飾区医師会 産婦人科学会集談会 (日産婦) 単
- 04.14 葛飾区医師会 産婦人科学会集談会「症例検討会 産科救急」(日産婦) 単
- 04.14 第69回 日本産科婦人科学会学術講演会「指導医講習会:女性医師のキャリアプラン」(日産婦) 単
- 04.14 第69回 日本産科婦人科学会学術講演会「シンポジウム1 (周産期)」(日産婦) 単
- 04.14 第417回足立区産科婦人科医会合同学術講演会「妊娠初期における甲状腺機能の管理」(日産婦) 単

先生への連絡 / おすすめの新着  
学会より  
企業より

動画配信  
学会関連の動画  
07.07 【専攻医教育プログラム1 (第60回)】 周産期画像診断 産科/胎児超音波診断の上達のためこーちよとしたコーナー (日産婦)  
07.07 【専攻医教育プログラム2 (第60回)】 多胎妊娠の診断と管理 (日産婦)  
07.07 【専攻医教育プログラム2 (第60回)】 新生児管理 (日産婦)  
07.07 【専攻医教育プログラム3 (第60回)】 生殖補助医療 (日産婦)  
07.07 【専攻医教育プログラム3 (第60回)】 不育症の診断と治療 (日産婦)

企業関連の動画

アンケート  
04.12 第69回 日本産科婦人科学会 学術講演会参加者アンケート (日産婦) NEW  
03.15 e医学会 ユーザーアンケート2017 (e医学会) 続きを見る

第69回 2017年4月13日(木)~16日(日)  
日本産科婦人科学会学術講演会  
広島県立総合体育館 (広島グリーンアリーナ) 他

所属学会メニュー

日本産科婦人科学会  
OPEN & CLOSE

- 会員向け開示情報
- JOGR Online Journal
- 専門医・指導医関連情報
- 産婦人科医師公募情報
- ACOG
- 優秀論文
- 優秀演題
- ビデオライブラリー
- 地方学会異動申請
- 産婦人科研修管理システム

# 評価の実際

## 8. 到達度評価画面

**形成的評価**

形成的評価の登録を行います。  
 ・登録は研修プログラム期間中、随時変更可能ですが、毎年3月30日～4月20日までに確定させてください。  
 確定期間中は「年次確定」のボタンが表示されます。

専攻医名 試験 3名

内容	専攻医の評価	専攻医のコメント
<b>医師としての倫理性と社会性</b>		
患者に対して適切な敬意を示せ、患者の多様性を理解でき、インフォームドコンセントの重要性について理解できる。	3.普通	
家族の要望に配慮し、患者・家族との信頼関係を築くことができる。	3.普通	
医療チーム全員に対して適切な尊敬を示し、医療安全と円滑な標準医療遂行を考慮した他の医師・看護師・助産師等との良好なコミュニケーションをはかることができる。	3.普通	
誤りを認め、他者の助言を受け入れることができる。	3.普通	
医師のプロフェッショナリズムとして、責任を持って自立して行動し、周囲から信頼される。	3.普通	
<b>学際的姿勢</b>		
臨床人科学および医療の進歩に対して自己学習・自己研鑽することができる。	4.優れている	
Evidence based medicine (EBM) イドライン等を参照して医療を行える。	4.優れている	
基礎・臨床的問題点解決を図るため	3.普通	

本邦の医学研究に関する倫理指針を熟知し、その内容に基づいて実施している臨床研究が実施

内容	専攻医の評価	専攻医のコメント
	指導医の評価	指導医のコメント
<b>医師としての倫理性と社会性</b>		
患者に対して適切な敬意を示せ、患者の多様性を理解でき、インフォームドコンセントの重要性について理解できる。	3.普通	
家族の要望に配慮し、患者・家族との信頼関係を築くことができる。	3.普通	
医療チーム全員に対して適切な尊敬を示し、医療安全と円滑な標準医療遂行を考慮した他の医師・看護師・助産師等との良好なコミュニケーションをはかることができる。	3.普通	
誤りを認め、他者の助言を受け入れることができる。	3.普通	
医師のプロフェッショナリズムとして、責任を持って自立して行動し、周囲から信頼される。	3.普通	

# 経験症例の登録と承認

## 9. 症例の登録確認画面

症例の確認

症例要件サマ

症例記録

3

症例レポート

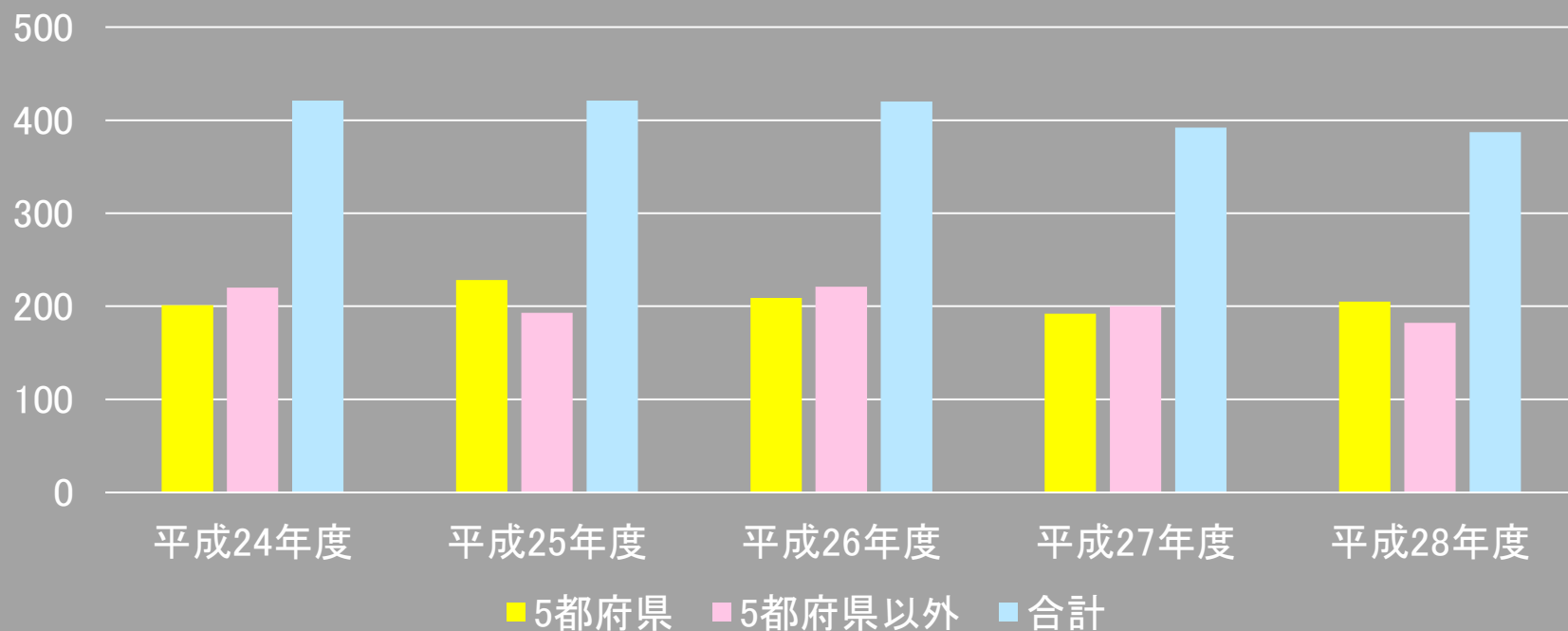
実地経験症例

実地経験目録4  
実地経験目録7に関しては実地経験目録10と重複が可能です。  
実地経験目録8に関しては実地経験目録10と重複が可能です。

目録名	実地実験名	目標症例数	登録症例数	未確認症例数	承認済症例数	要修正症例数	詳細
実地経験目録1	経膈分娩-立ち会い医として	100	4	0	4	0	内訳
実地経験目録2	帝王切開執刀	30	2	0	2	0	内訳
実地経験目録3	帝王切開助手	20	0	0	0	0	内訳
実地経験目録4	前置胎盤症例[あるいは常位胎盤早期剥離症例]の帝王切開術執刀医 あるいは助手	5	1	0	1	0	内訳
実地経験目録5	子宮内容除去術、あるいは子宮内膜全面搔爬を伴う手術執刀[稽留 流産を含む]	10	0	0	0	0	内訳
実地経験目録6	膣式手術執刀	10	0	0	0	0	内訳
実地経験目録7	子宮付属器掻出術執刀【開腹、腹腔鏡下を問わない】	10	0	0	0	0	内訳



# 産婦人科領域の 専門医取得者数の推移



都市部の都府県：東京、神奈川、愛知、大阪、福岡



# 産婦人科の専門医研修に関する日米の比較

日本

サブスペシャルティ領域  
専門医研修

産婦人科専門研修中の症例はカウントできないが、その経験を生かした研修が可

産婦人科専門研修

- 3～9年間で研修修了
- カリキュラム制を内包した柔軟なプログラム制
- 専門医取得時の到達レベルには多少の差
- 高難度医療に接する機会あり

低難度

専門医必須

到達度

米国

産婦人科専門研修

- 4年間で研修修了
- 完全なプログラム制
- 専門医取得時の質は均てん化
- 高難度医療に接する機会なし

低難度

専門医必須

高難度

サブスペシャルティ領域  
専門医研修

産婦人科専門研修のプログラムでは接することがない難度を最初から研修

# 都道府県別基幹施設数（複数）

都道府県	基幹施設数(大学以外)
北海道	4(1)
茨城	2(1)
栃木	3(1)
埼玉	6(1)
千葉	4(1)
東京	20(6)
神奈川	7(1)
富山	2(1)
石川	3(1)
岐阜	2(1)
静岡	2(1)
愛知	8(4)

都道府県	基幹施設数(大学以外)
滋賀	2(1)
京都	3(1)
大阪	9(4)
兵庫	4(2)
奈良	2(1)
岡山	4(2)
広島	2(1)
福岡	5(1)
長崎	2(1)
鹿児島	2(1)
沖縄	3(2)

# 都道府県別基幹施設数（単数）

都道府県	複数化調整状況	都道府県	複数化対策
青森	申請準備中	和歌山	申請準備中
岩手	申請準備中	鳥取	申請準備中
宮城	申請準備中	島根	申請準備中
秋田	申請準備中	山口	候補探索中
山形	申請準備中	徳島	申請準備中
福島	申請準備中	香川	申請準備中
群馬	申請準備中	愛媛	申請準備中
新潟	申請準備中	高知	申請準備中
福井	申請準備中	佐賀	申請準備中
山梨	統一プロトコール*	熊本	申請準備中
長野	申請準備中	大分	申請準備中
三重	申請準備中	宮崎	申請準備中

山梨県の「専門誌制度に係る関係者連絡協議会」より、平成30年度については産婦人科専門研修を一つのプログラムで行うことについての要望書が提出されています。

# 大都市部に専攻医が集中しないような配慮

- 要求する経験数を増加(例:帝王切開執刀10例→執刀30例+助手20例、腹式単純子宮全摘術執刀5例→単純子宮全摘出術執刀10例)。
- 原則として都道府県ごとに複数の基幹施設を置く。必要であれば認定基準を緩和。
- 基幹施設となっておらず、かつ東京23区および政令指定都市以外にある連携施設で、1か月以上の研修を行うことが必須。
- 連携施設(地域医療)を指導医が在籍していないが専門医が常勤として在籍しており、基幹施設となっておらず、かつ東京23区以外および政令指定都市以外では研修施設として設置。
- 基幹施設、連携施設1施設での研修は24ヶ月以内。
- 産婦人科専門研修制度の他のプログラムの基幹施設となっていない複数の連携施設が必要。

# 出産、育児等の女性医師等への配慮

- 専攻医は専門研修開始から9年以内に専門研修を修了し10年以内に専門医試験の受験を行う。
- 専門研修修了後、専門医試験は5年間受験可能である。
- 出産に伴う6ヶ月以内の休暇、または、疾病での休暇は6ヶ月まで研修期間にカウントできる。
- 週20時間以上の短時間雇用の形態での研修は3年間のうち6ヶ月まで認める。
- 育児短時間勤務制度を利用している場合は、常勤の定義を週4日以上かつ週30時間以上の勤務とする(この勤務は、33項の短時間雇用の形態での研修には含めない)。
- 出産、育児、留学、地域枠等合理的な理由がある場合には学会に申請した上で、柔軟にプログラムの異動を認める。